

WCS用イネの品種特性（病害への抵抗性）

1 はじめに

WCS用イネ栽培は、生産コスト低減のため、防除を最小限とする必要がある。品種の持つ病害虫抵抗性を理解し、栽培する地域で問題となっている病害に応じて品種を選択する。防除を行う際は、WCS用イネに使用可能な農薬に制限があるため、留意する。また、出穂期以降の防除は原則として行わないようにする。

2 病害に対する品種特性一覧

品種名	早晩性 ²⁾	抵抗性			
		いもち病 ¹⁾		白葉枯病 ²⁾	縞葉枯病 ²⁾
		真性抵抗性 (抵抗性遺伝子)	葉いもちへの ほ場抵抗性		
たちすずか	晩生	ある	弱	強	罹病性
たちあやか	中生	ある	不明	中	罹病性
つきあやか	中生	ある	不明	中	抵抗性
つきすずか	晩生	ある	不明	強	抵抗性
つきことか	極晩生	ある	弱	やや強	抵抗性

1) 稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル第7版<令和2年度版>(2020)(一社)日本草地畜産種子協会

2) 令和7年播種用「飼料用イネの栽培と品種特性」(2024)(一社)日本草地畜産種子協会

3 主要病害虫と品種

① いもち病

品種：「たちすずか」「たちあやか」「つきあやか」「つきすずか」「つきことか」

これらの品種は抵抗性遺伝子を持つと推定されるため、栽培開始当初は発病しないが、ほ場抵抗性は弱い、もしくは不明であるため、抵抗性遺伝子打破系統の出現・蔓延により甚大な被害となることがある。基本防除を励行し、抵抗性遺伝子打破系統の出現を抑制するとともに、発病が見られた際は、速やかに普及指導機関に相談する。

② 縞葉枯病

品種：「たちすずか」「たちあやか」

抵抗性が無いので、常発地帯では作付を行わない。